Back Number

本論文は

世界経済評論 2023 年 9/10 月号

(2023 年 9 月発行)

掲載の記事です

世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料
1,320円×6冊=7,920円▶6,600円 税込
17% 送料無料 OFF

富士山マガジンサービス限定特典
定期購読期間中
※通巻682号以降
デジタル版バックナンバー 読み放題!!

世界経済評論　定期購読

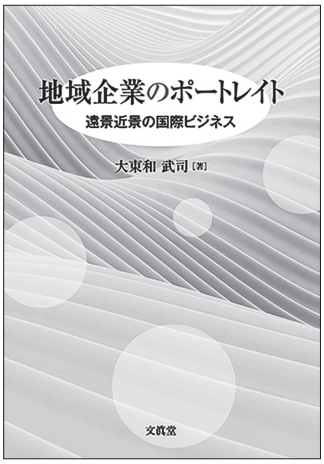
[24時間・年中無休]
0120-223-223

お支払い方法
Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

地域企業のポートレイト
：遠景近景の国際ビジネス

早稲田大学・文京学院大学
名誉教授　川邉 信雄



［著者］大東和武司（おおとうわ　たけし）
関東学院大学客員研究員
広島市立大学名誉教授
［発行］文眞堂，2023 年 3 月
［判型］A5 判，348 ページ
［定価］本体 2,800 円＋税

本書は，山口県と広島県の地域に根差して成長した企業 4 社の事例を通して，地域企業の成長と国際化プロセスの関係を，詳細に分析したものである。

第 1 の事例は，山口県岩国市出身の女性起業家である松浦奈津子の 2010 年代以降の事業展開を扱う。彼女は，古民家の再生事業から始め，ブランド米の開発，さらには熟成技術を使ったヴィンテージ日本酒「夢雀」を開発し，ドバイ，香港，フランス，米国，タイ，中国へと市場を開拓している。

第 2 の事例は，広島県熊野町で，明治から続く筆業家族からスピンオフした高木和男・美佐子夫妻が，1974 年に設立した「白鳳堂」である。同社は，伝統的な技法をベースに高級化粧筆を開発した。海外の有名ブランドの OEM 生産から国内市場を開拓し，世界的に有名な自社ブランド「MISAKO」を確立している。

第 3 の事例は，明治時代に貝原助治郎が絣織物の機屋として広島県福山市に創業した「カイハラ」である。同社は，第 2 次大戦後備後絣の生産・販売を再開し，民族衣装生地サロンの中東輸出で国際化を始めた。1970 代にはリーバイス，1990 年代にはユニクロとの取引を開始し，今やタイに生産拠点を持つ。

第 4 の事例は，広島県福山市に明治 6 年に神原勝太郎が創立した海運会社・造船会社に起源をもつ常石造船グループである。同社は，第 2 次大戦後，国の造船業の構造調整政策に対応して発展した。現在では，国内のみならず南米，東南アジア，中国での国際展開をおこなう。

これら 4 つの事例研究は，発展の時間軸のなかで「変らないもの」と「変らなければならないもの」があることを示している。変わらないものは，第 1 の事例では起業家の「古里に対する想い」であり，第 2 の事例では，「筆は道具」で主役をひきたてるものという理念である。第 3 の事例では，リーバイスやユニクロなど取引先との「対話」の重要性である。第 4 の事例では，事業に加えて地域の教育・医療・福祉などを考える「地域づくり」の理念である。

変わらなければならないものは，事業拡大や国際展開という空間的拡大のための革新である。第 1 の事例では，地域の経営資源や人的ネットワークの利用が，事業拡大の基礎になっている。第 2 の事例では，伝統的な技術にもとづく品質と OEM の求める量産を同時実現している。第 3 の事例では，取引先との対話から，染色，紡績，織布，整理加工を内部化し品質を保証している。第 4 の事例では，必要な技術や経営ノウハウを有している人材を他社から受け入れて技術力・経営力を高め，新事業を開拓し，国際展開をおこなっている。

本書は，企業の事例をとおして，「国際ビジネス」の意味を見直し，同時に国際ビジネスという大きな概念に照らして個々の事例の意味を問う。国際ビジネスの理論や地域企業の特性や問題点に関する理論，革新理論にも言及されており，理論と実践が巧みに融合されたすぐれた学術書といえる。

（かわべ　のぶお）